

美しい多摩川フォーラム設立総会議事録

- ・日 時 : 平成19年7月21日(土)14:00～16:25
- ・会 場 : フォレスト・イン昭和館(2階シルバンホール)
- ・来場者 : フォーラム設立準備委員会委員等、来賓及び一般来場者、計230名

1. 事前案内

(事務局・宮坂) 事務局からご案内します。本日の「美しい多摩川フォーラム設立総会」では、設立準備委員会委員の方は勿論、日頃フォーラム活動にご関心のある皆様にもご来場頂いております。設立総会の式次第ですが、開会后、青梅信用金庫の森田理事長と、東京農工大学名誉教授の小倉様にご挨拶を頂きます。そのあと議事に入りますが、冒頭でフォーラム設立までの経過について簡単に触れた後、第1号議案で美しい多摩川フォーラムの規約の制定、第2号議案で役員を選任、第3号議案で平成19年度事業計画についてご審議頂きます。続いてご来賓の預金保険機構の永田理事長様からお祝辞を頂戴いたします。そのあと閉会まで、フォーラムの役員や顧問の皆様からメッセージを頂戴し、時間の許す限り、貴重な懇談の場としたいと考えておりますので、よろしくお願い致します。

2. 開 会

(司会・渡辺) 只今より、「美しい多摩川フォーラム設立総会」を開催致します。私は、本日の司会の大役を仰せつかりました、多摩ケーブル・ネットワークの渡辺理恵と申します。どうぞよろしくお願い致します。

3. 挨拶

(司会・渡辺) 本日のフォーラムの設立総会の開催に当たりまして、このフォーラムの設立をご提唱されました青梅信用金庫の森田理事長よりご挨拶を申し上げます。

(森田理事長) 皆様こんにちは。青梅信用金庫の森田でございます。本日は「美しい多摩川フォーラム」の設立総会を開催させて頂きましたところ、大変お忙しい中を多くの方々にご出席を頂きまして、誠に有り難うございました。

青梅信用金庫は、多摩川の上流から中流域で事業展開をさせて頂いている協同組織金融機関ですが、その当金庫が、運命共同体として地域と共に生きていくために、企業の社会的責任を果たしていくことは勿論ですが、信用金庫の原点である相互扶助の精神で結ばれる地域の個人の方々、そしてNPO、事業者、団体、大学等教育研究機関、行政機関等との広域的な連携、又、協働による地域づくり運動が必要と考えております。

そこで青梅信用金庫では、地域づくりのために、地域の人々から最も共感が得られる「多摩川」をシンボルに掲げまして、「地域の活性化」と「地域の自立」を図っていく組織として、「美しい多摩川フォーラム」の設立準備を進めて来たところでございます。当金庫は、その事務局を担当する形で参加させて頂きたいと考えております。

この「美しい多摩川フォーラム」は、広域的な地域づくり運動として、息の長い継続的な取り組みを行い、地域に暮らす人々の自信と誇りが醸成されるようにも願っております。本日、ご出席を頂きました皆様、設立準備委員の皆様、そして会員となられた方、又、これから参加頂ける方、みんなでこの「美しい多摩川フォーラム」を育てて行って貰いたいと思います。今後、ご支援、ご協力を頂きますよう、お願い申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。本日は誠に有り難うございました。

(司会・渡辺) 続きまして当フォーラムの設立発起人を代表致しまして、東京農工大学名誉教授の小倉紀雄様からご挨拶をお願い致します。

小倉先生は常にフィールドを重視され、今年も身近な川の水質調査を全国6500カ所を手掛けられるなど、日本を代表する方でございます。

(小倉先生) 只今ご紹介頂きました小倉でございます。この「美しい多摩川フォーラム」の設立にあたりまして、お祝いとこれから期待することについて、述べさせて頂きたいと思っております。

お手元の「スカイウォーク多摩川」(国土交通省)という写真集にもございますように、多摩川は、山梨県を源に発し、東京、神奈川の大都市圏の中を流れ、東京湾に流入する全長138km、流域面積1240km²の河川で、流域の人口も420万人以上に達する典型的な都市河川の一つです。最近の水質も良好になりまして、清流のシンボルである鮎が100万匹以上戻ってきているとの報道もあります。多摩川の流域には豊かな自然環境や伝統的な文化がまだたくさん残っており、水辺には多くの人々が憩いの場として集い、楽しんでます。水辺は多くの生き物の生息の場となり、地球温暖化やヒートアイランド現象を緩和する重要な役割を担っています。このような多摩川は人々に多くの恵みを与えて来ています。したがって、今、多摩川の価値を改めて見直し、将来に向けて多摩川を引き継いでいくことが、私たちの担う重要な任務であると考えております。

私たち市民グループは、多摩川や支川の浅川、野川で身近な川の一斉水質調査を平成元年から始め、今年の6月に19回目の調査を実施致しました。このような市民による水質調査は全国に広がりまして、国土交通省と市民グループが連携し、身近な川の水環境の一斉調査に発展致しました。全国一斉調査は今年で4回目を迎えましたが、北海道から沖縄まで47都道府県の5000カ所以上の場所で調査が行われ、現在事務局で結果を取りまとめているところでございます。本日設立される「美しい多摩川フォーラム」の活動の中にも、多摩川の一斉水質調査や広域清掃などが計画されています。

このような活動を市民グループと共に是非実現して頂きたいと願っております。

現在、地球規模の環境問題として、地球温暖化が最も大きな課題になっています。今年2月、IPCC（気候変動に関する政府間パネル）による「地球温暖化に対する第4次評価報告書」が公表されました。この重要な公表を受けまして、気候の安定化に向けて、科学者から国民に対して緊急メッセージが発表されております。多摩川流域においても、地球温暖化による様々な影響を受けていると考えられております。

温暖化については地球規模だけでなく、多摩川流域においてもその実態の把握、将来の予測や影響の評価を、専門家だけでなく、行政、事業者、そして市民も参加して早急に且つ長期的な視野に立って実施することが重要であると思っております。

「美しい多摩川フォーラム」の設立にあたりまして、流域での活動を100年の目で考え、長期的に継続し、美しい多摩川を次世代に引き継いでいくことを期待致しまして、ご挨拶とさせていただきます。有り難うございました。

4. 議事運営

（司会・渡辺） これより本日の設立総会の議事に移らせて頂きたいと思っております。今回は、当フォーラムの設立提唱者であることに免じまして、議長を青梅信用金庫の森田理事長にお任せしたいと思っておりますが、如何でしょうか。よろしかったら拍手をお願い致します。（拍手。）有り難うございました。それでは、森田理事長に議長をお願い致します。

（森田議長） 森田でございます。ご指名によりまして、暫らくの間、議長を務めさせていただきます。限られた協議時間ですが、皆様、既に議案に目を通して頂いているものとして議事を進めたいと思っておりますので、ご協力のほど、よろしくお願い致します。議案の協議に入る前に、当フォーラムの設立までの経過について、設立準備委員会の事務局より説明をお願いします。

（1）当フォーラム設立までの経過報告

（事務局・宮坂） 事務局の青梅信用金庫の宮坂でございます。当フォーラムの設立経緯につきまして、簡単にご説明申し上げます。バブル崩壊後の不良債権処理に目処が付き、監督官庁も利用者保護に監督方針の重点を移す中で、青梅信用金庫と致しましても、今後、地域とどのように向き合っていくべきか、昨年夏場以降、真剣に検討致しました。その結果、信金本来の原点に立ち返り、相互扶助の精神に則った地域づくりが必要であるとの結論に達し、今回、緩やかな連携・協働を旨とする地域フォーラムを立ち上げることに致しました。全く新たな発想の組織なので、今年1月に当金庫内に地域貢献部を設置し、当フォーラムの事務局機能を担わせることにしました。出来るだけ広く連携していくために、幅広い地域から、かつ公正にフォーラムを運営して頂ける有識者、指導者の方々や、行政などにお声を掛けまして、去る4月19日に当フォーラムの設立

準備委員会を立ち上げ、準備を重ねて本日を迎えました。

(2) 第1号議案：美しい多摩川フォーラムの規約の制定について

(森田議長) 有り難うございました。それでは議案の協議に入りたいと思います。まず第1号議案ですが、「美しい多摩川フォーラムの規約の制定について」です。事務局より説明をお願いします。

(事務局・宮坂) 「美しい多摩川フォーラムの規約の制定」について、簡単にご説明申し上げます。規定の第2条に目的が記載されております。多摩川をシンボルに、健全な水環境を守り、教育により文化を発展させ、そして、地域経済を活性化させることにより、生きがいをもって、自立して暮らすことができる地域づくりを目指すことが謳われております。そのための事業として、第3条に、「美しい多摩川100年プラン」を策定し、実施していくこととされております。また、地域の人々に、フォーラムに幅広く参加して頂くために、第5条に定める年会費は出来る限り低く設定されております。なお、行政にあつては年額1万円とされておりますが、その第3項にありますように、現物提供やその他サービスの提供等により、会費の納付に代えることが出来るとされておりました。今後は、行政会員の年会費につきましては、一律、この条項を適用したいと思っております。次に、フォーラムの役員ですが、第7条に定めておりますように、会長1名、副会長2名、そして行政、民間から、それぞれ25名以内の運営委員、2名の監事が役員となります。また、フォーラム全体としてサポートして頂くために第9条で顧問を定め、専門分野でサポートして頂くために第10条でアドバイザーを定めております。次にフォーラムの組織体制ですが、第11条、12条、13条におきまして、総会、役員会である運営委員会、実行部隊としての活動部会を定めております。なお、第15条にて、フォーラムの事務局を、青梅市の青梅信用金庫地域貢献部内とすることを定めております。

(森田議長) 有り難うございました。何かご疑問の点はありますでしょうか。……。質問もないようですので、もしご承認頂けるようでしたら、拍手をもってお願い致します。(拍手) 有り難うございました。全員一致の賛成で第1号議案は可決承認されました。

(3) 第2号議案：役員の選任について

(森田議長) 続きまして第2号議案ですが、「役員の選任について」です。事務局より説明をお願いします。

(事務局・宮坂) 「役員の選任」について、簡単にご説明申し上げます。当フォーラムの

設立準備委員会が本年4月19日に発足致しましたが、その後、賛同の方が増えまして、最終的に49名の方が設立準備委員会にご参加されております。当フォーラムは、多摩川をシンボルに、民間主導で広域的な連携・協働による地域づくりを進めていくという組織でございますので、先ほどご説明したフォーラムの規定の目的に適うよう、民間からは、学識経験者、公益的な企業体、地域づくりのリーダー等の方々に運営委員へのご就任をお願いしました。また、多摩川水系を運動の軸にしていることから、主として、多摩川に直接接している自治体や行政機関にも運営委員へのご就任をお願いしております。さらに、公正な立場から監事をお願いしたほか、フォーラム全体としてサポートして頂くために、有識者の方に顧問への就任をお願いしました。そして、こうしたフォーラムに当初から関与され、ご経験もある方に、会長、副会長へのご就任をお願いしたところです。なお、当フォーラムの提唱者である青梅信用金庫からも副会長をお願いしたいと思っております。以上、準備委員会の皆様方のご意見等を参考にしながら、役割分担する形で今回の議案となっております。

(森田議長) 有り難うございました。何かご疑問の点はありますでしょうか。……。質問もないようですので、もしご承認頂けるようでしたら、拍手をもってお願い致します。(拍手。) 有り難うございました。全員一致の賛成で第2号議案は可決承認されました。只今、当フォーラムの初代会長として、お茶の水女子大学教授の篠塚先生が選任されましたので、ここで篠塚会長に議長をバトンタッチしたいと思います。皆様、拍手をお願い致します。(拍手。)

(篠塚議長) 只今、会長に選任されました篠塚英子と申します。この分野で大した見識もないのですが、どういう訳か、この素晴らしい「美しい多摩川フォーラム」の組織のトップの仕事を仰せつかりました。どうしてこうなったかにつきましては、いずれお話したいと思っておりますけれども、これは素晴らしい企画だと私自身思っております。ここに集まった人々が、是非、このネットワークやそれぞれのネットワークを使い、そして多摩川から全国に発信できるような新しい地域づくりが出来ればいいな、と思っております。

私自身はこの地域ではなく文京区に住んでおります。文京区には神田川がございます。神田川でも桜並木が美しいのですが、しかし、こちらの自然の広さからいえば、とても負けてしまいます。この多摩川の流域を使って、そして様々な人たちがどのような活動が出来るかということを考えますと、この新しい試みに心が躍ります。

私の専門は経済学でございます。ひよんな事から日銀で金融政策等も担当しました。経済学の素晴らしい学者に、もう亡くなった方ですが、ケインズという学者がおります。生まれたのは1884年で、生まれてから120年も経っておりますが、亡くなってからは60年が経過しております。このケインズの書かれた小さな論文の中に、「我が

孫たちの経済的可能性」という、とても素敵な論文がございます。この中に何が書かれているかという、「人間の欲望には限りがあるから、ある程度、経済的に豊かになったら、(ケインズが生きていた時に考えていた) 100年後の自分たちの孫たちには、もはや経済的な問題はなくなる。」とか、「100年後に、生きられるか、食べられるかといった経済的な問題が無くなっていけば、次は、豊かな生活に関する問題だけになるはずだ。」というようなことを仰っています。ケインズが亡くなってから100年は経っていないものの、生まれてからは120年も経っておりますが、今、私たちの中で、経済的な問題がないかと言えば、とんでもないということになります。人間の欲望には限りがないのです。経済学で仮定している人間の行動を、経済取引を通して調べるのが経済学の問題なのですが、その時に仮定している人間というのは、合理的な欲望を持って色々な経済取引を行うことを前提に理論を組み立てています。つまり、いくらでも欲しいものはエンドレスなのです。「これでもういい。」ということがないのです。私たちが経済行為をする時は、自然に働きかけて物を作り、そこで生かさせてもらっている訳なのですが、エンドレスということは、やはり自然環境に一番負荷がかかっていると思います。恐らくケインズは、人間の欲望は無限大にあるとは思っていなかったのだと思います。しかし、今日、世界中で、グローバリゼーションの中で、人間の欲望はやはりエンドレスに近いと思います。

今後、多摩川から発信する、あるいは、多摩川のこの地域から発信する、私たちの運動ですが、うまくいけば100年の計画です。ケインズが100年後と言っておりましたが、この多摩川から100年の計画を出して、次の100年へと繋げて行くネットワークになればと思います。そんな訳で、皆様一緒にネットワークづくりにご協力して頂きたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

(4) 第3号議案：平成19年度事業計画について

(篠塚議長) さて、議案に戻りまして、第3号議案の平成19年度事業計画について、当フォーラム事務局の宮坂運営委員に説明をお願いします。

(事務局・宮坂) 当フォーラム事務局の宮坂でございます。改めてよろしくお願い申し上げます。平成19年度の事業計画についてですが、本来ですと、計画した事業内容を一つ一つ丹念に審議して決定していく訳ですが、今回は設立されたばかりであり、議案のとおり、運営委員会、活動部会、シンポジウムといった会議等のおよその開催日程をご提案します。当面は、当フォーラムの設立準備委員会発足の段階から申し上げているように、「美しい多摩川100年プラン」を、来年3月までに策定することをご提案します。100年プランと言っても、壮大な工事を計画する訳ではなく、美しい多摩川フォーラムによる「地域づくり運動」を、末永く100年間続けたいという意気込みを示すものです。また、個人や事業者や行政などの地域主体がどのように役割分担し、

連携・協働していくのか、どのように計画を進化・発展させていくのか、といった基本的な考え方を整理する予定です。一方、手近に当フォーラムの趣旨に合う案件がある場合には、平成19年度に限っては、今後の運営委員会で協議の上、平成19年度事業案件として決定したいと考えています。さらに、当フォーラムの設立趣旨に賛同された東京都教育庁から、「“地域力”を活用した青少年の育成」事業として「多摩川の森の環境教育」(仮称)という委託案件がありまして、これは当フォーラムの趣旨に合う案件なので、是非ご採択をお願いします。総事業費用は、全額東京都の負担で約200万円です。因みに、平成19年度の事務局運営費用につきましては、全額、青梅信用金庫の負担金で賄いたいと考えております。

なお、現在、手作りではありますが、当フォーラムのホームページを作っておりまして、明後日の7月23日に對外オープン予定です。これから、その一部分をご紹介します。正面のスクリーンをご覧ください。トップページでは、多摩川に関連する3枚の写真が次々重ねて映し出され、最後に、「多摩川をシンボルに、みんなで美しい多摩づくりを」というメッセージが浮き出ます。次の画面は、多摩川のプロフィールです。続いての画面は、多摩川マップ。これはまだ上流部分しか出来上がっていませんが、今後、時間をかけて河口へと拡大して行きたいと考えています。地図のポイント箇所には、その地点の写真や一部動画映像が登録されています。青梅を流れる多摩川などが動画にて紹介されています。次が「美しい多摩川100年プラン」です。これは例示であり、今後、皆様にご検討して頂きたいと考えているものです。このホームページは、明後日の月曜日にオープンする予定ですので、ご覧頂きましてご意見をお寄せ頂ければ幸いです。当フォーラムの広報手段として、その機能を十分発揮したいと考えていますので、よろしくお願い致します。

(篠塚議長) 有り難うございました。第3号議案として、平成19年度の事業計画について、運営委員会を年4回程度開催すること、3つの活動部会が既に動き始めつつあること、来年3月までに「美しい多摩川100年プラン」を策定すること、さらに、ホームページが7月23日からオープンすること、などの説明がありました。只今の第3号議案につきまして、何かご質問はございますか。もう少し詳しく知りたいところなどございませんか……。ところで、ホームページの検索については、「美しい多摩川フォーラム」と入力すれば、すぐに画面が出てくるのですか。

(事務局・宮坂) ホームページはまだオープンしておりませんので、URLもまだ公表しておりません。明後日にオープンしますので、それに伴って、「美しい多摩川フォーラム」と入力すれば、アクセスが可能になります。

(篠塚議長) 分かりました。では、第3号議案につきまして他に何かございますか。

ご質問、ご反対がないようでしたら、拍手をもって賛成して頂きたいのですが。(拍手)有り難うございました。全員一致で第3号議案は可決承認されました。以上で、あらかじめ議題として提出された3つの議案につきましては、すべてご承認を頂きました。この他に、皆さんで検討して欲しいような議題がありましたら、どうぞ挙手をお願いします。……。格別無いようですので、この辺で議事を終了したいと思います。今後は、フォーラムの皆様と、地域づくり運動を始めとして、様々なことにつきまして、お話し合いをしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

(司会・渡辺) 篠塚会長、どうも有り難うございました。それでは、ここで、「美しい多摩川フォーラム」の設立をお祝いしてお越し頂きました、ご来賓をご紹介申し上げます。預金保険機構理事長の永田俊一様です。永田理事長様は、地域づくり運動に大変ご見識が深く、フォーラムの運動にはかねてよりご理解・ご支援を頂いた方でございます。勿論、ご専門は金融行政・政策のほか、前職の信託協会副会長として、その分野の著作も多数ございます。それでは、永田理事長様、よろしくお願い致します。

5. 来賓挨拶

(永田理事長) 只今ご紹介頂きました永田でございます。まずもって、「美しい多摩川フォーラム」が無事発足されましたこと、心からお祝い申し上げます。

先ほど、「美しい多摩川フォーラム」のホームページの写真集など、色々綺麗な資料を拝見し、昔若い頃にこの辺を歩き回ったことを思い出しました。また、その後、大きな変化があったことも理解しました。今後、皆様方の多摩川に懸ける思いが、この地域をどのように変えていかれるのか、大変楽しみにしております。諸先輩、諸兄がおられますが、本日は、多摩川を愛する一個人会員として、また、かねて篠塚会長、宮坂事務局長と、川をめぐる環境問題、地域問題等を語り合った者として、一言、ご挨拶を申し上げたいと存じます。

私なりに、この運動を咀嚼致しますと、この運動は地域づくりを目的としていまして、そのため、お手元の資料にもありますような「多摩圏民」～圏民とはなかなかいい言葉が使われたと思っておりますが、その「多摩圏民」の共有財産としての多摩川をお預かりし、そして流域圏民の一人一人の想いという委託を受け、地域の様々な関係者が集まったこのフォーラムが、まさにその受託者となりまして、「100年プラン」という言葉に象徴される将来の圏民のために、その目的達成に向けて様々な企画や事業を展開しようとしているのだと思っております。そして、地域の共生・発展に繋がる多摩川の「形」を作ると同時に、自信や誇り、そして高いモラルという「心」を醸成し、次代に「形」と「心」を遺伝子として伝え、こうした地域づくりを強い絆で結び付ける、すなわち、強い信頼関係を築いて実現していくということを言っておられるように思います。

こうなると、冒頭でご紹介頂きましたけれども、信託とその観念普及をライフワーク

にしております私としては、このフォーラムの運動は、信託そのものに見える訳でございます。目的をしっかりと決めて、財産や権利や制度を信じるにたる受託者に信託し、思い定めた受益者に成果をきっちりと引き渡していく。これが普遍的な信託の仕組みであります。受益の態様によって、信託には民事信託、商事信託、公益信託等がありますが、当フォーラムの事業はまさに公益信託にあたる訳でございます。一人一人の思いから出発して、紡ぎ上げて残していく信頼の仕組み。これらの仕組み、器は、今のような変革期には、特に有用であると私は信じている訳でございます。信託法制も80年ぶりに改正され、本来のあるべき姿になったというように理解しております。信託のPRをしている訳ではありませんが、皆様は、これ信じて託された受託者なのです、と申し上げたいのであります。このような意味で、当フォーラムは、その受託実現に誠実に努めることが求められているのです。自己を律し、他者の立場に立ち、考え行動する受託者責任がございます。皆様、「多摩川」をキーワードに強い絆で結び付き、素晴らしい地域づくりに大いに貢献されるよう確信しつつ、また強くお願いし、ご挨拶に代えさせて頂きたいと思っております。どうも有り難うございました。

(司会・渡辺) 永田理事長様、信託のお話に喩えた励ましのメッセージを有り難うございました。当フォーラム会員一同、気合を揃えて、地域づくりに邁進したいと思っておりますので、今後ともお引き立てをよろしくお願い申し上げます。さて、今回、フォーラムの設立に当たり、ご参加頂いた運営委員、監事、顧問の皆様から、ご意見等をお伺いしたいと存じます。フォーラムに期待すること、フォーラムに懸ける思いなどについて、ご披露頂ければと思います。なお、ここからは、司会進行役を当フォーラム事務局の宮坂運営委員にバトンタッチしたいと思っております。ではよろしくお願い致します。

6. 懇談会

(事務局・宮坂) 懇談会の司会を担当します、事務局の宮坂でございます。ご発言のトップバッターを、当フォーラム副会長のダニエル・カール様をお願いしたいところですが、本日は、あいにくテレビ収録の関係で岩手県の盛岡に行かれておりまして、残念ながらご欠席となっております。その代わり、ダニエル・カール様からビデオ・メッセージが届いておりますので、まずそれをご紹介します。

(ダニエル・カール) どうもっす！こんにちは！「美しい多摩川フォーラム」の設立総会にお集まり頂きました皆さん、こんにちは。ダニエル・カールです。なして私が、山形弁研究家の私が、皆さんに挨拶しているかと言うとですね、実はですね、私は山形県の最上川で、ここと同じようなフォーラムに参加させて頂いたことがありましたんでね、川のこと、よ〜く考える人間の一人としてですね、何と云うか、多摩川あたりにでもですね、このようなフォーラムが始まるって聞いてたんですね。私も今、東京に

住んでいるんだから、やっぱり是非とも参加させて頂きてえと思ってまして、それで今回、入ることになりました。残念ながら、皆さんはせっかく今日お集まり頂きましたけれども、私がちょっと別の仕事で遠い所に行ってるんで、ビデオで失礼させて頂きます。けんども、今回このフォーラムに期待したいこと、期待していることが何なのか、述べさせて頂きてえと思います。

やっぱし、川って言ったらですねえ、人間の社会にとっては、とっても大きな存在なんですよね。川がなかったら、町が出来ねえんだ。町が出来なかったら、やっぱり社会は出来ないっていうことなんです。全世界的なことなんですけれども、人間の歴史が始まって以来、社会って言うか、町は、川沿いに出来てるもんなんですよ。ただ人間がね、その町に暮らしながら、捨てる物だとか、なんだとか、もおいろいろ出る訳なんですよ。その捨てる場がなくなると、大体、川に流したりとかする訳なんですけれども、これはやっぱりいけねえことなんですよね。

私も初めて日本さ来たのが、今から30年前なんですけんども、その時代はですねえ、急成長時代の真っ盛りでしたが、そこで、なんだか変なことに気が付きました。学校の先生たちから子供たちが注意されてるんですよ。「川が危ないものだから近寄るんでねえよ。」とか、「そこで泳ぐと危ねえんだ。」とか、いろんなことを、川について注意されてたんですよ。これはやっぱり不自然なんですよね。川っていうのが、町に対していかに大事なもののなのか、大事にせねばならない、守らなければならないもののなのか、皆さんはよくご存知だと思います。このフォーラムで一番期待したいのがそれなんですよ！多摩川、せっかく良い川、長〜い川なんですので、そして、その川沿いに住んでらっしゃる方がいっぱいいる訳なんですから、近寄りたい存在に変えて欲しいんですよ。川沿いに住んでる方々が、いつでもそこに行って、ちょっと散歩したり、大自然を楽しんだり、もっと水を綺麗にすればですね、下流は鮎釣り、中流はヤマメ、源流は岩魚釣りとかですね、そういうようなことが出来るようになるんですね、本当に近寄りやすい清流が流れる川になると、本当に一番いいんですよ。

あと、山形の最上川でも、私は地域づくり運動に参加させて頂きましたが、向こうのフォーラムでも、やっぱり桜並木の植樹をしました。多摩川にもですね、素晴らしい所がいっぱいあるんですけども、それぞれ、別々でやっているところなんです。そこで、皆さんが協力して、「桜の並木をずう〜と多摩川沿いに植えましょ」っていうような運動が始まれば、これがもう一つ、東京都の環境名所みたいなのが出来るんでねえかなって思います。桜並木は美しいもの、これこそ日本文化の一つだと思いますので、是非とも多摩川沿いにも、もうちょっと桜並木を植えて、それから水を綺麗にして、若い人たちや、お年寄りの方、中年の方、子供たちにも、本当に近寄り易い存在にして頂きたい。ということで、そういう意味で、私はこのフォーラムに参加させて頂きたいと思っています。環境のことや、町の経済のことはもちろん、子供たちの教育のこと、生き物の教育とか、そういうことも多摩川沿いで出来るように、是非ともそういう川に

していきたいと思いますので、フォーラムに参加しながら、皆さんと仲良くいろいろしたいと思います。本日は、本当にね、ご一緒になれなかったことが大変残念に思っております。是非とも次回からですね、顔を出したいと思いますので、一つよろしく頑張ってくださいませ！

（事務局・宮坂） ここからは、ご出席頂いた皆さんの「美しい多摩川フォーラム」への心意気や、ご提案など、感想めいたようなことも含めまして、ご意見を賜りたいと存じます。では最初に、大多摩観光連盟会長で東京都議会議員であります野村先生から、よろしくお願い致します。

（野村・都議会議員） 青梅市出身の都議会議員の野村でございます。只今ご紹介頂きましたとおり、大多摩観光連盟という団体がございまして、東京の西多摩4市3町1村と山梨県の丹波山村、小菅村の10自治体で構成されています。私ども観光連盟の立場で申し上げますと、是非この大多摩地域の森林、多摩川、景観、環境などを保全して頂き、貴重な観光資源として、海外の方も含め、皆さんに楽しんで頂きたいと思っています。

東京都におきましても、多摩川に依存する部分がたくさんありまして、水道局の所管では、水源を始め、昭島下流に向けての流域下水道の放流河川としての位置付け、また、産業労働局では森林再生と共に、多摩川の内水面漁業、交通局では白丸ダムの水力発電、電気事業がございまして。さらに、西多摩建設事務所と本庁の建設局では、河川管理などの問題に対応しております。ただ、私どもは、森林、多摩川、東京湾とここに生息する動植物の生態系を守るという観点から、行政は縦割りでございますが、やはり一元的・総合的にコントロールしていかなければならないと思っております。そうした視点では、このたび設立されました「美しい多摩川フォーラム」のような団体の皆さんが、多摩川の総体についてご意見を頂くということは、行政にとっても大変有り難いことでございます。そのような視点から、都議会でも、「多摩川を愛する議員連盟」という組織を既に設立しておりまして、4月から大田区長を務める都議会議員出身の松原区長さんもそのメンバーでございました。都議会でも、このような動きがありますので、このフォーラムに協力させて頂きたいと思っています。

最後に、私の個人的な希望ですが、多摩川を描いた芸術作品や文学作品もありますので、是非、歴史を溯って、そうした作品を発掘して頂き、多摩川を「文化」としても捉えて頂ければ、大変有り難いと思っております。皆さんご存じのことですが、万葉集の詠み人知らずの歌、中里介山先生の「大菩薩峠」における冒頭の名文（大菩薩峠が分水嶺で、東に流れるのが多摩川、西に流れるのが笛吹川というくだり）、水没した小河内村を書いた石川達三先生の「日蔭の村」という小説、歌人の北原白秋先生が小河内村に投宿された際に一晩で百首を詠まれたという歌、これは多摩という歌集に載っているそうです。当然、川合玉堂先生も御岳に滞在されて多摩川をお描きになっています。

このように文化面の発掘についても、是非、当フォーラムにお願いしたいと思っております。そうした思いが、東京都民の「多摩川」を愛する心を育んで行くのではないのでしょうか。本日は、誠におめでとうございます。

(事務局・宮坂) どうも有り難うございました。ここからはお席の順に、まずは多摩川上流域の青梅市の竹内市長様から、よろしくお願い致します。

(竹内・青梅市長) ご紹介頂きました青梅市長の竹内でございます。本日は、「美しい多摩川フォーラム」の設立、誠におめでとうございます。多摩川に限らず、河川のそれぞれに流域があって、そこで生活が成り立っており、それに伴って、その地域での文化、経済、その他もろもろのことが営まれてきたのが歴史であるかと思えます。

このフォーラムでは100年先を考えて色々やっということですが、逆に何百年も昔に溯り考えてみますと、100年先というのは、それ程のことでもないのかなとも思いますが、いずれにせよ、この地域は、流域ということで長い歴史を持ってきた訳です。しかし、近年になって、それが他の行政や経済など色々な面で分断されているのかなと、以前に比べて流域圏というような影が薄くなってきているというのが実態だと感じております。そうした中で、改めてこの流域全体を相対的に見直し、この地域の連携を図ることは、非常に大切なことだと思っております。こうした状況下で、この「美しい多摩川フォーラム」が設立されたということは、誠に素晴らしいことだと思えます。多摩川について言えば、特に、東京都民の水源として大きな貢献をしてもらっている訳ですし、また、下流部では貴重な都市空間を形成し、中流や上流に行きますと、レジャーや散策など、自然に親しむ場としての役割もある訳でございます。我々も非常に恩恵を受けているところです。そういうことを忘れずに、それらの地域が連携して多摩川についてよく考え、恩返しをしていく、多摩川を守ることでより良くしていくような取組みが出来ればよいと考えております。

フォーラム会員の協力によりまして、当フォーラムが活性化し、地域全体の連携が図れますことを期待しておりますので、よろしくお願い致します。

(事務局・宮坂) 有り難うございました。続きまして、多摩川中流域にある羽村市の並木市長様、よろしくお願い致します。

(並木・羽村市長) ご紹介頂きました羽村市長の並木でございます。今日は「美しい多摩川フォーラム」の設立総会に参加させて頂き、誠に有り難うございます。事務局を担う青梅信用金庫との結び付きについて一言申し上げますと、金融機関である青梅信金の職員を行政である本市に派遣して頂き、市内の企業のご指導を頂くという、深い縁がある訳でございます。そうした関係もあってお声が掛かり、こうした素晴らしいフォーラ

ムに、羽村市としても積極的に関わっていきたい、ということで参加させて頂いたところでもあります。

多摩川と羽村市との結びつきも大変深いものでして、ご存じのとおり、「羽村の堰」というのが多摩川にありまして、多摩川から分かれて江戸に向かう玉川上水の起点が羽村市でございます。そういう意味では、多摩川という川が、私どもの町に果たしてきたことについて、行政としても、従来から大事に考えてきたように思っております。地域づくり運動全体として多摩川をシンボルに、いろいろな件でこのフォーラムが充実していくと同時に、行政としても、そうした特色を活かしながら、どのようなことが出来るかということに参加しながら考え、広げていきたいと思っております。また、そうした役割を果たしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

(事務局・宮坂) 有り難うございました。続きまして、今度は上流域にある奥多摩町の河村町長様、よろしくお願い致します。

(河村・奥多摩町長) 奥多摩町長の河村でございます。この「美しい多摩川フォーラム」のお話がありました時に、是非参加させて頂きたいと思ったところでございます。特に私たちの町は、東京都民の水瓶として、また、多くの人々の憩いの場として、これから100年間守っていかなければならないのではないかと、思うように思っております。そういう意味でも、多摩川を大切にしていくということは、これから先の人たちにとっても大切なことなんじゃないかな、と思っております。水、空気、あるいは、そこに来て安らぎを覚えるということが、大変大切な時代になっているんじゃないかな、と思っております。こうした点では、源流から河口までの方々が、いろんな意味で連携を取りながら、この多摩川を更に美しくしていこうという運動は、大変意義のあることです。こうした運動は、多くの皆さんのお力・お知恵をお借りしながら、地域に住む人々が多摩川を大切にすることを更に強くしていくものと思っております。

いずれにしても、奥多摩の町は、自然と水、人情がまだ残っております。今後、東京に住む人や東京の近県に住む人に、おいしい水と空気を提供し、さらに、森林セラピー事業を始めたいと思っております。今の社会で、いろんな心の悩み、体の悩み等がある人に、奥多摩の町に来て頂き、それを癒して頂こうという事業を、今年度から立ち上げ、来年4月の認定に向けて頑張っているところです。

当フォーラムに対しましては、こうしたことにつきましても、多くのご意見、ご指導を頂ければ有り難いと思っております。この「美しい多摩川フォーラム」が益々発展していくことを願いながら、私のご挨拶とさせていただきます。有り難うございました。

(事務局・宮坂) 有り難うございました。続きまして、今度は多摩川上流部の河川管理をご担当している東京都西多摩建設事務所の柴田所長様をお願いしたいと思います。

(柴田・西多摩建設事務所長) ご紹介頂きました西多摩建設事務所長の柴田と申します。どうぞよろしくお願い致します。青梅市の多摩川に沿って国道411号線(青梅街道)がありまして、そこに万年橋という橋がかかっています。100年ほど経っており、一昨年に工事が完成した橋ですが、そこから上流にかけて36キロほどを、私どもの事務所で管理させて頂いております。そのような立場から、「美しい多摩川フォーラム」の話がありました時に、100年先まで展望するという事で、管理者としても大変素晴らしいことだと思い、参加させて頂いた次第です。

先ほどダニエル・カール氏からご指摘もありましたように、町は川から生まれるんですね。メソポタミアやインダスといった文明も、全部河から発祥しているなあと、ふと私も思い出しまして、河というのは、文化・文明と深く結び付いているなと、つくづく思いました。そう考えますと、私ども水辺を管理する立場からも、まず水辺環境の保全が非常に重要だと思います。素晴らしい水辺で、次代を担う子供たちに、生息している生き物、動植物などに親しみ、学んでもらうために、私どもが水辺を保全・整備する意義があり、また、子供たちが成人になっても、親しみや潤いのある水辺に近づくことが非常に大切になってくると思います。勿論、こうしたことから、地域経済が活性化する訳でして、地域づくりや町おこしにおいても意義があると思います。ただ、私たち行政は、法令による管理という厳しい面もあり、一定の制約もありますが、出来る限りこの運動に協力していきたいと考えておりますので、よろしくお願い致します。

(事務局・宮坂) 有り難うございました。今度は民間の立場からということで、多摩の地域づくりに大変詳しい中央大学大学院の細野教授にお願い致します。

(中央大学大学院・細野教授) 中央大学の細野でございます。今日、「美しい多摩川フォーラム」が発足致しました。皆様とこのような会でご一緒出来ることを嬉しく思っております。私は大学で教鞭をとっておりますが、それより大事なことは、多摩地域を元気にするために、大学と行政と企業の方々が参加した「ネットワーク多摩」という社団法人の世話役をしております。ご承知のとおり、東京都の人口は、23区で800万人、多摩地域で400万人となっています。先ほど、多摩川の流域には420万人の「多摩圏民」がいるという話がありましたが、考えてみると、「多摩川圏民」じゃないかなあと思いましたが、「多摩川圏民」だと「神奈川県民」と間違えやすいので、「多摩圏民」になったのかなと思ったところです。

そのような訳で、地域の皆さんと一緒に、「多摩川」を一つの東京のシンボル、あるいは、多摩のシンボルとして、どのように活用出来るのかを考えると共に、特に、観光を中心に産業の活性化も考えて行かなければなりません。「多摩川」が子供たちの誇りの源泉であるためにはどうするか、当フォーラムの「100年プラン」を着実な

ものとして、日本が誇る、あるいは、世界に誇れるような環境活動の一つのメッカとなるように、また、研究活動や産業の一つの大きな源泉になるようにすることが出来たらと思っています。

多摩にはたくさん財産があります。私はそれを「玉(多摩)手箱」と呼んでおりますが、その一番大きな財産が多摩川だと思っています。今後、皆さんと一緒に、未来の多摩川に向けて関わっていくことが出来るので、とても幸せだと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

(事務局・宮坂) 有り難うございました。ここで、多摩川に接しているとはいえ、特に支流である浅川流域一帯をカバーしている八王子市から、産業振興部企業支援担当部長の石川様、お願い致します。

(八王子市・石川部長) 八王子市の石川でございます。まず始めに、「美しい多摩川フォーラム」の設立総会にあたりまして、ここに至るまでの事務局を始め、関係者の皆様の大変なご努力に対して心から敬意を表したいと思っております。そこで、当フォーラムに対する本市の期待を述べさせていただきます。

事務局のご紹介にありましたように、本市は多摩川に接してはおりますが、多摩川の支流であります浅川が市内の中央部を東西に流れております。特に、浅川につきましては、「みんなの川の清掃デー」とか、日野市さんと合同で開催している「八王子市・日野市同日清掃」、あるいは、「浅川サバイバルレース」～これは残念ながら台風の影響で今年は中止になってしまいましたが～、それにアパッチ・ケンさんが取り組んでいる「がさがさ探検隊」、こうしたイベントなどが、本市関係団体により様々に行われています。市民の憩いの場、活動の場である母なる川として、大いに活用しています。また、本市では、浅川の水量確保や、近年、浅川の水質が大変綺麗になっておりますので、鮎の溯上に向けての取組み等につきましても、研究・広報活動等を進めていこうと考えております。そこで、当フォーラムには、多摩川流域のネットワークの構築が、地域それぞれの活性化に繋がることをまず期待したいと思います。併せて、是非、支流の浅川等を含めた多摩川水域全体のご理解を頂きたいと思っております。

(事務局・宮坂) 有り難うございました。続いて当ホテルの所在地である昭島市から、日下企画部長様、お願い致します。

(昭島市・日下部長) ご紹介頂きました昭島市の企画部長の日下でございます。本日、このように大きな「美しい多摩川フォーラム」が、私ども昭島市の会場で開催され、設立されましたことを、心より御礼申し上げます。昭島市は多摩川と大変関わりの深い市です。一つは、昭和36年だったかと思いますが、八高線の下流で大きな鯨の化石が

発見され、当時「アキシマクジラ」として話題になりました。このように多摩川が、太古の昔に海の底にあり、鯨が棲んでいたことから、多摩川に夢とロマンを感じております。もう一つは、多摩川水系との繋がりから、昭島市では水道水が100%地下水で維持されていることです。多摩川上流域の奥多摩町、山梨県丹波山村など多くの方のご努力のおかげで、地下水や湧水になり、昭島市11万人の市民がその恩恵に預かっている訳です。このように、私どもが多くの恵みを受けている多摩川について、当フォーラムで、もう一度皆さんと考えようということです。昔の行政なら、何でもかんでも基本的に行政がやるんだということでしたが、最近では広域連携、市民との協働ということで、市民の皆さんを始め、企業、経済界、NPO、市民団体の皆さんの力で作り上げていく、というのがこれからの行政の目指すべき方向であると考えております。

そうした意味でも、このフォーラムの設立は、大変意義のあるものだと考えております。本日は本当におめでとうございます。微力ではありますが、このフォーラムが益々発展されますことを期待致しております。

(事務局・宮坂) 有り難うございました。ここでまた民間から、企業の社会貢献をサポートしている日本フィランソロピー協会の高橋理事長様、お願い致します。

(日本フィランソロピー協会・高橋理事長) ご紹介頂きました日本フィランソロピー協会の高橋でございます。どうぞよろしくお願い致します。フィランソロピーという言葉聞いたことのある方は、殆どいらっしゃらないのではないかと思います。このフィランソロピーという言葉は、元々は人間愛、博愛を意味しますが、社会貢献という言葉で訳されています。普段は企業の社会貢献の推進をサポートしています。その場合、企業が何かをする、あるいは、お金をどんと出すというより、むしろ企業に働く人々が社員としてではなく、市民として一人一人が出来ることをやっという、という仕組みづくりを推進しております。会社人間になりきっておまして、ボランティアや寄付をしたくても、なかなか一人じゃこわくて出来ないのが現状であります。企業がそれを後押しする、サポートする体制が必要じゃないかと考えまして、啓蒙活動を行っております。従来、わが国では、社会や地域の問題をまさに全部、「官」に依存してきた訳ですが、それじゃあ駄目なんだということが、今日のフォーラムに象徴される動きであるかと思っております。それを運動として進めていくには、こうしたフォーラムが非常に大切だと思います。最近、感じることはあるのですが、「他人と過去は変えられない。変えられるのは自分と未来」ということです。皆さんの家庭や職場でも感じることもかもしれませんが、やはり自分が変わり、行動していくことで、周りにも波及し、メッセージが伝わるんじゃないかと思います。このフォーラムの仲間に入れて頂けることに感謝すると共に、この「美しい多摩川フォーラム」の運動を進めることが、一つの日本の新しい未来を創るモデルとして、全国にメッセージを発信していければと思っております。

どうぞよろしくお願い致します。

(事務局・宮坂) 有り難うございました。ここで多摩川中流域の狛江市から、水野企画経営室長様よりお願い致します。

(狛江市・水野室長) 皆さん、こんにちは。狛江市企画財政部企画経営室長の水野でございます。本日の「美しい多摩川フォーラム」の設立、おめでとうございます。多摩地区におきまして、多摩川という存在は、上流域から考えると、渓谷美、中流域では富士山を借景とした美しい景観ということで、心のふるさと的な存在だと思います。

狛江市では、その多摩川を利用したイベントとして「水辺の楽校」、「古代カップ多摩川いかだレース」がありますが、「いかだレース」については、先週日曜日に開催予定でしたが、台風の影響で明日に延期されました。以前から交流のある小菅村さんには、この「いかだレース」にもご参加頂いております。また、中越地震被災地の川口町さんとも「いかだ」で交流させて頂いております。

このフォーラムの設立を切っ掛けに、多摩川を利用し、民間と行政の皆さんが連携出来るというのは、かつてなかった試みだと思います。多摩川流域で、さらに美しい住民交流が生まれ、イベント交流が深められれば良いなと思っています。是非よろしくお願い致します。

(事務局・宮坂) 有り難うございました。ここで民間からですが、地域づくり運動に非常に熱心に取り組んでいる、ネイチャー&カルチャーの下重代表様をお願いしたいと思います。

(ネイチャー&カルチャー・下重代表) 下重でございます。私は環境教育を長年やってきた人間ですが、生まれたのは大田区で、子供の頃に丸子橋周辺で水遊びをした思い出があります。その後、世田谷区、狛江市、日野市、多摩市、調布市と多摩川を上ったり、下ったりしております。子育ての頃も多摩川から大変恩恵を頂いております。しかし、多摩川から色々な恩恵を頂いているのに、私は多摩川に何もお返ししていません。人間は物を貰うとお返ししますが、自然にはお返ししていない人が多いようです。この「美しい多摩川フォーラム」は、そういった意味でも、とてもよい機会になりますので、発起人を引き受けさせて頂きました。

多摩川を考えますと、多摩川は東京湾に流れ込み、世界の海に通じています。その世界の川や海を豊かで綺麗なものにするということについては、持続可能、サステナブルという言葉がキーワードになるんじゃないかと思っています。このフォーラムは、流行の言葉で言うなら、「多摩圏の品格を高める」運動になるのではないかと思っています。そういう視点で、多摩川圏から地球市民を育て、地球全体を生きとし生ける

ものにとって住みやすい、次世代にとってもサステナブルな地球にして行けるような、そんな活動が出来れば、また、貢献出来ればと願っております。どうぞよろしくお願い致します。

(事務局・宮坂) 有り難うございました。続きまして今度は教育関係ですが、東京都立青梅総合高校の花野校長先生、お願い致します。

(都立青梅総合高校・花野校長) 皆さん、こんにちは。「美しい多摩川フォーラム」の趣旨に共感し、是非参加したいと思いました。都立青梅総合高校は昨年開校したばかりの新しい高校で、前身は都立青梅農林高校と都立青梅東高校が発展的に統合して出来た高校であります。青梅農林高校は約100年、青梅東高校が約30年、地域に貢献してきた高校ですが、青梅総合高校はその精神を引き継いで、多摩川を中心とした自然、特に、森林環境、自然を守り、育てる高校にしていきたいと考えております。教育目標には、「地域貢献」と入れました。それを発揮していくためにも、このフォーラムへの参加は大変良い機会かなと思っています。多摩川は教育の宝庫だと思います。私個人としては、多摩川にかかる橋が好きで、色々な橋を眺めるのが好きです。私の故郷は新潟なのですが、地域の皆さんは、信濃川を非常に誇りに思っております。今後、地域の川として、是非、多摩川を誇りに持てるような川にしていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

(事務局・宮坂) 有り難うございました。続きまして民間事業者の立場から、京王電鉄株式会社の武井広報部長様、よろしくお願い致します。

(京王電鉄・武井広報部長) 京王電鉄の武井でございます。本日は「美しい多摩川フォーラム」の設立、おめでとうございます。私ども京王電鉄では、多摩川との関係が非常に深く、上流域ではグループ会社の西東京バスが源流部分も含めて走っております。また、京王線は多摩川中流域を走っており、事業展開をしております。京王線は多摩川に2本の鉄橋がかかっております。

環境に関しましては、多摩川の関戸橋の近辺で、毎年1回「多摩川クリーン・キャンペーン」をここ十数年続けております。また、カレンダーを作る際にも、数年おきに多摩川にちなんだものにしており、弊社と深い関係があります。個人的にも、昔は多摩川で泳いだり、釣りをしたりと、子供の頃にそのような経験があります。子供には、そのようなことをさせたいなと思っています。それから、京王線が6年後に開業100周年を迎えます。先ほど、100年後を見据えた多摩川というお話がありましたけれども、私どもも、このフォーラムに100年の計で関わっていければ幸いです。これからも長い付き合いになるとと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。

(事務局・宮坂) 有り難うございました。続きまして、実際の現場で、水辺の楽校など、地域づくり活動に携わっている、青梅・多摩川水辺のフォーラムの 井上事務局長様、お願い致します。

(青梅・多摩川水辺のフォーラム・井上事務局長) 青梅・多摩川水辺のフォーラムの井上です。3点を申し上げて、PRとお願いにしたいと思います。

まず1点目は、私たちの活動は、青梅市の環境基本計画に基づいて設立された環境市民団体ということです。環境基本計画の中に実施計画が13項目ありますが、その第3項に、「青梅市は多摩川に水辺の楽校を作る。それを担う市民団体がいないので、新しくこれを創設し育成していく」と明記されており、私たちは、最初から青梅市との協働を前提とした市民団体となっています。昨年スタートして1年と2ヶ月経過しましたが、皆様の多大なご支援により、70名の会員になるまでに成長しました。

第2点目は、私たちのスローガンは、「青梅の多摩川に子供たちの歓声を取り戻そう」ということですが、これからお話することは、衝撃的だと思いますが、敢えて言います。青梅市は多摩川に子供が入れませんし、近寄れません。この理由は色々あります。青梅は138キロの多摩川の中でも最高に素晴らしい場所だと、国交省の方も仰ってました。私たちは、市民球場周辺とか、有名な釜の淵の周辺に、是非、水辺の楽校を作りたいと思います。本日は、狛江市にある全国第1位の水辺の楽校の竹本副代表が運営委員としてお越しになっておりますが、引き続きご指導を賜りたいと思っております。第3点目は、先ほど行政の縦割りのお話がありましたが、この水辺の楽校については、分かったようで、実は全然分かっていない。すなわち、水辺の楽校は、3省共同の国家プロジェクトなんですね。国土交通省、文部科学省、環境省の3省が共同して作ったプロジェクトです。昨今、この趣旨が全国的に不徹底です。今の時代、いじめ、自殺、教育が大問題となる中で、多摩川の水辺の楽校は、新しい時代を担っていくと思っております。以上、PRとお願いを3点申し上げました。

それから、新たに「のめっこい」をスローガンとした青梅信金が、実にタイミングよく、この「美しい多摩川フォーラム」を設立されました。慧眼に敬意を表すると共に、諸先生方には、温かい目を持って、青梅の水辺の楽校を、是非ともご指導のほど、よろしくお願い致します。

(事務局・宮坂) 有り難うございました。さて、委員席の席上には2つの資料が置いてあるかと思えます。1つは国土交通省京浜河川事務所様からのご提供資料で、「空から見た多摩川～スカイウォーク多摩川」。もう1つは、東京都建設局河川部様からご提供頂きました、「東京の川を歩こうガイド」です。非常によく纏まったガイドで、当フォーラムと致しましても、これをしっかり勉強していきたいと思っております。残念ながら

ら、在庫部数の関係で、「スカイウォーク多摩川」の方は委員席までしか配れませんでした、「東京の川を歩こうガイド」の方については、東京都様のご厚意から、本日、お越し頂いた皆様にも行き渡るようになっておりますので、ご確認ください。それから、今日は残念ながら、ご都合でお越し頂けなかった皆様から、事前にメッセージが届いておりますので、ここでご紹介したいと思います。それでは、司会の渡辺からご披露申し上げます。

(司会・渡辺) それでは、当フォーラムの運営委員や顧問の皆様から頂いた応援メッセージをご紹介致します。まず、元東京都副知事で、現在、**明治大学大学院教授の青山様**からのメッセージをご紹介致します。

『世界のまちは、いずれも川を中心に発展しました。パリのセーヌ、ロンドンのテムズ、ニューヨークのハドソンとイースト。私たちのまちも、多摩川を中心に据えると、まちづくりが見えてきます。川を行政区域の境界線と考えてしまうと、文化、文明、そして人々の生活を見失ってしまいます。私は丹波山や小菅も歩きます。川崎にも行きます。東京にとっては、水源であり、憩いやスポーツの場であり、河口には羽田空港を置く、まちづくりの根幹をなす多摩川です。古代から中世、近世、近代、そして現代に至るまで、多摩川は歴史の宝庫でもあります。下水道が発達したから、多摩川の水はきれいになりました。堤防をきちんとつくって人々が安心して暮らすようになりました。苦勞して橋をかけ、生活は便利になりました。多摩川はまちづくりの発展史をも示しています。そういう多摩川を語り、発信する運動に共感を覚えます。』

次は、**立川市の青木市長様**からのメッセージです。

『「美しい多摩川フォーラム」設立おめでとうございます。21世紀は環境の世紀といわれます。異常気象の起因となっているともいわれる地球温暖化の問題は、地球全体に関わる大きな問題であると考えます。このような中、多摩川フォーラムが発足されますことは、時宜を得た取り組みであります。市民、事業所、行政の協働による広域連携事業として大いに期待致します。』

次は、**東日本旅客鉄道株式会社の高野・八王子支社長様**からのメッセージです。

『この度は、「美しい多摩川フォーラム」設立おめでとうございます。JR東日本八王子支社と致しましても、多摩川沿いを走ります青梅線は、通勤・通学はもとより、首都圏のお客様から気軽においで頂ける観光地域として、非常に重要な線区であります。これまでも、臨時列車を運行し、数々のイベントを行い、多くのお客様に青梅線沿線や多摩川沿いにお出かけ頂きました。その際は、地元の自治体や観光協会の方々にご協力を頂き、お客様にご好評を頂いております。この度、設立されました「美しい多摩川フォーラム」は、地元の方の行政区域を越えた結び付きを強化するものとお聞きして

おりますが、まさに、ハード面とソフト面の両面から、色々な形のおもてなしを行うことであり、そのことが、地域の活性化に繋がるものと思います。そのような点からも、「美しい多摩川フォーラム」は、青梅線沿線や多摩川沿いにおいて、非常に重要な役割を担う存在であると思います。弊社と致しましても、微力ながら協力できる部分については、現状を踏まえた上で、お手伝いさせていただきます。「国家百年の大計」ではありませんが、「美しい多摩川フォーラム」百年の大計を立て、地元の皆様が手作りの活動を息長く、継続的に展開されることを期待致しますと共に、夢に向かって一步一步着実に歩まれることを、祈念致しまして、お祝いのコメントと致します。』

次は、**森林総合研究所多摩森林科学園の藤井園長様**からのメッセージです。

『森林総合研究所は、森林、林業、木材産業に係わる研究を通じて、豊かで多様な森林の恵みを生かした循環型社会の形成に努め、人類の持続可能な発展に寄与することを使命としております。その中であって、多摩森林科学園では、文化的遺産として貴重なサクラ品種を全国各地から集めて、桜保存林として保全すると共に、研究情報を活かして森林環境保全に関する教育及び学習、すなわち「環境教育」のための研究を進めています。私たちの研究は、「美しい多摩川フォーラム」の目的とする、「教育による文化の継承・発展」、並びに、「豊かな自然と文化を次代に継承」と方向を同じにしています。私たちの研究の成果が、フォーラムの活動を通じて、実践に結び付く日が来ることを願っています。』

最後に、**音楽評論家の渡辺學而様**からのメッセージです。

『「美しい多摩川」とは、単なる水環境の保全ばかりではなく、多摩川を取り巻く自然環境を開発などの破壊から守り、保持していくことであろう。そうすれば、多くの人々はその豊かな自然に憩いを求めて集まり、地域経済の活性化にもつながるであろう。しかし、それが観光地化してしまうと、逆に、その美しい自然が保てなくなる危険もあり、その辺のかね合いが、今後の課題になろう。』

以上、ご欠席された方からお寄せ頂いたメッセージを紹介致しました。

(事務局・宮坂) 続いては、今度は皆様から見て時計周りでご紹介したいと思います。まず、先頭バッターとして、環境問題にご関心の深い衆議院議員の井上先生からお願い致します。

(井上・衆議院議員) 衆議院議員の井上信治でございます。私は西多摩地域選出であります。「美しい多摩川フォーラム」が設立されて、心より喜んでおります。只今、皆様方の有意義なご意見を拝聴させて頂きました。このフォーラムに大変期待するとともに、

青梅信金さんが地域に根づいた金融機関として、地域の共通財産である多摩川の様々な課題に取り組むということにつきましては、地域貢献として非常に素晴らしいことだと思っております。

さて、我々の記憶には新潟中越沖地震が記憶に新しいかと思いますが、その少し前には台風4号が梅雨前線と重なり、大変な集中豪雨で本州、四国では大変な被害が出ました。私は自民党の中で災害担当副幹事長を任されておりますので、早速、九州の方に飛びました。本当に現地は惨憺たるものでございました。川が洪水になって流域の家屋を根こそぎ押し流していました。しかし、私が現地に行きますと、雨が降り続けている中でしたが、自分の家屋を家族総動員で直していました。あるいは、その周辺の方も、ずぶ濡れになりながら手伝っていました。「なぜですか。」と尋ねると、「自分たちは、生まれた時からこの川のほとりで育っているから。むしろ先祖も皆そうやって育ってきたから川のほとりに住み続けたい。だから水害なんかには負けちゃいけない」、「ここで豊かな人生を送っていきたいんだ」と言っておりました。災害復旧や治水という観点から致しますと、移転して頂くほうが却って良いのですが、そうしたお気持ちには大変胸を打つものがありました。

私は青梅に住んでおり、今日も青梅から来ました。今日、ここまで来る途中、多摩川を眺めながら来ました。このところの雨で増水していました。大丈夫かなと心配をしながら来たのですが、多摩川の流量を見ながら日々の天候が分かる。流域の緑を見ながら日々の季節の移ろいが分かる。多摩川に出ている人たちを見て人の流れが分かる。多摩川と触れ合って毎日の生活を営んでいる。そんな地域に住んでいることを誇りに思いながらこちらにやって参りました。

一方で、我々の世代や子供たちの世代は、多摩川との触れ合いが段々減ってきているんじゃないかなと思います。我々の先輩世代に聞くと、幼い頃は、毎日、朝から晩まで多摩川で遊んだことを話されます。これから川との触れ合いをより積極的にやっていかなければならないのかなと思います。

このフォーラムにお願いしたいことは、素晴らしいメンバーに委員になって頂いていますが、今後、具体的に何をやっていくのか、よく分からない面があります。色々な課題があるとは思いますが、細かい課題、目の前の課題はそれぞれがやっていくことができます。また、我々、政治や行政も責任を持ってやっていかなければなりません。他方、この素晴らしいフォーラムは、むしろ夢のある長期的な大きな夢を描いて議論をし、明るい未来を実現していく。子供たちや孫たちの世代にも、「美しい多摩川」というものを、しっかりと引き継いでいくことが出来るよう、そんな課題にも是非取り組み、挑戦させて頂きたいと思っております。例えば、天然鮎が溯上できるように魚道などを整備していく、奥多摩湖に遊覧船を浮かべて多くの観光客に来てもらう、上流から下流まで遊歩道やサイクリング道を整備していくなど、多摩川を活用してたくさんの方に多摩川を知ってもらう、観光支援をやっていく、是非、こうした大きな課題に取り組ん

でもらいたいと思います。

(事務局・宮坂) 有り難うございました。只今ご意見がありましたように、夢のあるプランを考えて欲しいとのことでしたが、私たちは、まさにこれから「夢のシンボル・プラン」をじっくり考え、そして半年かけて「美しい多摩川100年プラン」として纏めていきたいと思っておりますので、ご期待して頂きたいと思うと同時に、この面で、是非サポートやご助言をお願いしたいと思っております。

続きまして、多摩川中流域にある福生市の野澤市長様、よろしくお願い致します。

(野澤・福生市長) ご紹介頂きました野澤でございます。環境の視点から考えますと、広域連携が必要となってきます。そういう意味で、行政同士、企業同士、市民グループの全てをひっくるめた形でフォーラムが立ち上がったことや、ここまで纏めて下さった青梅信金さんや関係の皆様には、心から感謝と敬意を表したいと思っております。同時にこれからの問題で一つお願いしたいのは、福生市も含め、市民団体・グループが非常に高いレベルで活動しているので、団体、NPO、様々ありますが、フォーラム参加しているか、いないかに関係なく、広く色々な形で意見交換や活動支援をみんなで考えて欲しいと思っています。また、そうしたことを忘れずにやっていければと考えていますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(事務局・宮坂) 有り難うございました。続いては、多摩川の河口からということで、遠路お越し頂いた大田区の松原区長様、よろしくお願い致します。

(松原・大田区長) ご紹介頂いた、多摩川の一番下流から参りました大田区の松原と申します。今日、運転手さんに「昭島まで行くのにどれ位かかるの？」と聞いたところ、2時間位と聞きまして、1時間早めて11時に出発し、途中、立川の町を見て、お昼を食べてこちらに来ましたが、正直、遠いというのが実感です。しかし、遠いのですが、この多摩川で生活している皆さんが相互交流しよう、そして連携を強めよう、そうすることで距離は遠くても皆さんの心は一つで、距離はなくなってしまう。そういうことは、非常に大事なことだと思います。実は私は3月まで東京都議会議員をしております、都議会で「多摩川を愛する議員連盟」を作った仕掛け人の一人で、また、東京湾で「水の都再生議員連盟」を作り幹事長をしています。両方作った理由は、その間に羽田空港があるからです。羽田空港を活性化させるためには、東京湾も多摩川も必要なのです。その中で、これから大切なのは、行政と民間がなんでも一緒に取り組んで行く、協働の時代と言われておりますが、一方で、官でやるべきことは、やはり官で連携を組んでやることだと思います。例えば、17市区で「多摩川の整備」を図っておりますが、当番幹事を毎年、17市区で交代して担当しており、たまたま現在、大田区が当番幹事

になっています。つい先日も、埼玉県にある関東地方整備局に行き、整備局長に「多摩川を綺麗にして欲しい」とお願いし、次に国土交通省に行き、事務次官に会ってきました。まず17の市区が纏まることが大事、次に東京都議会、自民党ですが「多摩川を愛する議員連盟」が出来ています。国の方では、大田区から出ている平・衆議院議員が井上・衆議院議員と同期仲間なので、井上・衆議院議員にお願いしました。そうしたら、国と都と市区と一緒に出来ますから、そうやって大きく多摩川を捉え、官として、政治としても考えようというのが、私の発想でございます。今一つは、民間の方々が相互に交流する機会を、青梅の皆さんが「美しい多摩川フォーラム」として設立し、多摩の皆さんが考えていくことになるというのが印象的であります。

いずれにせよ、関東から見て多摩川を利用する方が1,600万人もいる。多摩川沿川に住んでいる人だけでも420万人もいる。国からみても、これだけ長い一級河川で多くの方が住んでいるのは、とても珍しいそうです。多摩川は笠取山の水源から河口まで138kmありますが、いろんな形で連携が取れば良いなと思っております。私たちは世界に羽ばたいていく日本の玄関の大田区ですので、そこから皆さんの情報を世界にどんどん発信していく、そんなフォーラムに成長してくれたらとても嬉しいと思ひ、このフォーラムに参加させて頂きました。皆様、本当にご苦労様でした。

(事務局・宮坂) 有り難うございました。今度は民間から立川商工会議所の岩崎会頭様をお願い致します。

(立川商工会議所・岩崎会頭) ご紹介頂いた岩崎でございます。このたびは、「美しい多摩川フォーラム」の設立総会が開催されまして、青梅信金さんを始め関係者の皆様に心から敬意を表すところです。私たちの年代は、子供時代に多摩川に入って、ふんどし一つで素潜りし、鮎を手掴みした思い出があります。そうしたことを通じて友情を深めましたが、今はそれがスポーツだったのかなと思います。今後、そうした多摩川に育てて頂ければ、本当に嬉しく思います。

この機会にPRで恐縮ですが、多摩地区には7つの商工会議所と21の商工会・連合会があり、昨年11月に、「国際園芸博覧会」(国際花博覧会)を多摩地区で開催して欲しいということで決議致しまして、現在、東京都や各市長さんに色々働き掛けているところです。テーマは「花と緑と環境問題」です。多摩地区には多くの大学があり、バイオの研究が盛んに行われていますが、花博覧会の時は世界から出展があり、バイオの交流もなされると思います。各地方自治体にも近々請願が出されますし、既にホームページも開設されております。多摩国体が開催される2013年に花博の開催を予定していますが、その年は、東京都への多摩移管120周年、東京都制施行70周年ということで、大変エポックメイキングな年と考えております。皆様にはご理解頂いて、「美しい多摩川フォーラム」と一緒になって、多摩都民に夢を与えていきたいと思ひ

ますので、どうぞよろしくお願ひ致します。

(事務局・宮坂) 有り難うございました。続いて多摩川の源流域から、丹波山村の岡部村長様にお願ひ致します。

(丹波山村・岡部村長) 皆さんこんにちは。只今ご紹介頂きました、丹波山村の岡部でございます。多摩川と言いますと東京都と、いうように思うかもしれません。多摩川を溯りますと、丹波川になります。その丹波川流域に位置するのが我が丹波山村です。当村は現在、山梨県で人口が一番小さな村となってしまいました。近年、町村合併が論議されているところです。そのような中におきましても、小さな村として頑張っ行って行こうということでやって参りました。

先ほど、どなたかが触れられましたが、青梅信金さんが営業で使っておられる「のめっこい」とは、つるつるする、すべすべするという意味であります。「のめっこい」と名付けたのは、青梅信金さんより我が村のほうが少し先なんですけど、この「のめっこい」という言葉のとおり、多摩川の上流域、中流域、下流域と、そういうところが連携を取りながら、多摩川を守っていくことが本当に大切だなあと思っております。多摩川の源流は、甲州市笠取山の水干の一滴になろうかと思っております。一ノ瀬川、丹波川を通過して多摩川になります。その距離が138kmといわれております。この138kmの長い河川、多摩川が、100年後に素晴らしい「美しい多摩川」として残るように、このフォーラムも続いてくれればよいなと思っております。

私たちの村でも、環境整備、道路整備、治山、治水に気配りしております。下水道も東京都水道局さんのご支援を頂き、昭和62年に供用開始となり、高度な処理をしております。カジカの住む清流、自然環境の誇れる美しい村が、丹波山村でございます。下流域、中流域、上流域が連携を取りながら、経済発展、観光の発展に繋がるよう、また、「美しい多摩川フォーラム」が永遠に続きますよう、お願ひを致します。本日は本当におめでとうございます。

(事務局・宮坂) 有り難うございました。先ほどから、「のめっこい」という言葉が出ていますが、この言葉は、埼玉県の秩父や丹波山村を始め、奥多摩・青梅地域の方言でありまして、本来は、つるつる、すべすべ、喉越しがよい、というような意味から転じて、人間関係が親密になるというような言葉でございます。私どものフォーラムにつきましても、委員の方々と、これからフォーラムの会員になる方が、「のめっこい」関係で意見を出し合ひまして、議論を重ねて参りたいと思っております。どうも有り難うございました。続いては多摩川中流域にある稲城市から、守屋都市建設部長様にお願ひ致します。

(稲城市・守屋部長) 皆様こんにちは。今日は市長が出席する予定でしたが、急な公務が入り、来れませんでしたので、まちづくりを担当している私が、市長よりメッセージを預かって来ておりますので、代読させていただきます。

『「美しい多摩川フォーラム」設立おめでとうございます。設立関係者の皆様に深く御礼を申し上げる次第でございます。多摩川は悠久の時代から流れ続け、流域の住民の生活を支えて参りました。時には豪雨による氾濫もあり、人は英知を集め流水を静めて、多くの恩恵を受けて参りました。江戸時代の玉川上水や、沿川の農業用水など、これらの遺産を今日まで受け継ぎ、それらが市内を潤し、水面があることによる地域の微気候を保つ機能も兼ね備えていることから、宅地化が進む中、環境用水として活かしていく必要があると考えております。また、上流では、シカなどの動物の食害連鎖から山林崩壊の発生を防止し、沿川市街地でも下水道を完備するなど、環境を維持し、海まで清流を届けることが、流域の自治体の役割でなければならないと考えております。これからも多摩川の河川環境空間を大切にし、市民の憩いの場とすると共に、沿川の建物の景観に配慮する仕組み作りや、緑地の保全などを進め、将来の子供たちに、この大きな美しい環境資産を引き継ぐために、稲城市は今後も沿川自治体と協働し、より良い環境を保全し、維持し続けたいと願っております。本日の「美しい多摩川フォーラム」の設立を契機に、流域の市民、企業や自治体が連携していくことを、強く望むものでございます。今回の皆様のご発展を祈念し、挨拶に代えさせていただきます。』

なお、多摩川の水は、稲城市の平坦地にある約40haのなし園を潤し、「稲城のなし」として、東京のブランドになっております。8月末には大きなもので1房800円程度致しますが、どうかご賞味頂ければと思っております。どうも有り難うございました。

(事務局・宮坂) 有り難うございました。続きまして民間から、NTT東日本一東京西の祖父江社長様にお願い致します。

(NTT東日本一東京西・祖父江社長) ご紹介頂きました祖父江でございます。このたびは、「美しい多摩川フォーラム」の設立、本当におめでとうございます。私どもの営業エリアは、東京23区を除く多摩全域、先ほどの丹波山村、小菅村、それに神奈川県北部相模原市を管轄しておりますが、そのエリアの中心を流れておりますのが多摩川で、非常に大切な川だと思っております。個人的にも、私は多摩に住んでおり、山登りが好きなので、多摩川上流の山はいつも登らせて頂いています。

このフォーラムの目的は、手元の資料に書いてありますように、「豊かな自然と文化を次代に継承するとともに、人々が交流し、生きがいを持って自立して暮らすことができる地域の形成を目指す」ということです。私たちも、電気通信ネットを仕事としておりますが、最近ではインターネットや映像も始めており、電気通信のインフラを預か

る者と致しまして、この分野で、新しいフォーラムに微力ですが貢献出来ればと思っています。このようなフォーラムに参加させて頂き、本当に有り難うございます。

(事務局・宮坂) 有り難うございました。続きまして造形芸術が専門であります、明星大学の佐久間副学長様、お願い致します。

(明星大学・佐久間副学長) 明星大学の佐久間と申します。どうぞよろしくお願い致します。明星大学は、多摩川流域の多摩市と青梅市に2つのキャンパスがございまして、私は青梅市のキャンパスで仕事をしております。専門が造形芸術なので、学生たちには造形やデザイン等を教えておりますが、今回、このフォーラムの設立のお話を頂きましたところ、個人的に共感することがあり、参加させて頂きましたが、それ以上に、学部内の学生に対して、「地域との交流と活性化を考えさせ、それを提案していく」という正規の科目がありますので、より共感を覚えました。

大学が青梅市にあることから、青梅市の自然、文化、観光、その他もろもろを学生たちが調べ、今後どうしたら活性化に繋がるかを授業で考えております。私の専門からは決して近い分野ではありませんが、学生たちも専門性の見つからない2年生ですから、苦戦しておりますが、若い頭脳からは、面白い提案、はっとさせられるような提案もありますので、今後は、大学として若い力を使って行きたいと考えています。大学には、地方からも来ますが、私たちの預かっている学生の30パーセントは、この多摩地域からです。私の授業には、毎年1学年で50人以上いますが、この学生たちが、毎年、巣立って行く訳ですから、いずれ青梅で学んだことを多摩川の流域に持ち込んでくれると思っています。

青梅市に住んでいる方に、データにならないアンケートをしております。大人と、ある青梅市の小学校の生徒に聞くことになり、学生が考えるには、大人と子供の考えていることに温度差があるだろうとの予想のもとで行われたのですが、結果は「差がない」ことが分かりました。要するに、学生たちが子供たちに、「青梅にもし神様がいたら、どうして欲しい？」と聞いたところ、「青梅をもっと田舎にして欲しい」、「川にもっと魚を入れて釣りをさせて欲しい」という、自然を非常に大事にする答えが返ってきたということでした。一方、大人の方には、「どうして青梅に住むのですか？」と聞いたところ、「青梅市よりいいところは考えられない」、「なんでそんな質問を聞くの」というような方が非常に多く、地元を愛する人が多いところのようです。他の都市でも、そうした傾向があるかもしれませんが、私どもは、多摩川流域の大学の立場から、若い学生を引き連れて、微力ではありますが、フォーラムに協力させて頂きたいと思っています。どうも有り難うございました。

(事務局・宮坂) 有り難うございました。続きまして、多摩川の支流の秋川流域にある

あきる野市から、木内環境経済部長様にお願い致します。

(あきる野市・木内部長) 皆さん、こんにちは。あきる野市の環境経済部長の木内でございます。只今紹介されましたように、秋川は多摩川の支流でございます。皆さんは、「多摩川、多摩川」と言われますが、委員名簿を見ましても、秋川流域からの参加は、私たち、あきる野市だけのようですが、東京都の最後の清流と言われる秋川を、どうかよろしくお願い致します。多摩川につきましても、数キロですが地形的に接している所がございますが、主流はあくまでも秋川です。因みに、平井川もございます。

さて、あきる野市には、東京都初の里山として「横沢入地区」がございます。これは昔の自然に戻すよう、東京都の事業として、私どもの地域団体が実施しております。立川商工会議所の岩崎会頭も仰っていたように、昔遊んだ秋川の光景が思い出されるのですが、そういった昔に戻す、あるいは、次代を担う子供たちが自由に遊べる川に戻すようなことを、この「美しい多摩川フォーラム」を通じまして、協力して参りたいと考えております。

(事務局・宮坂) 有り難うございました。続きまして、東京電力立川支社の高岡支社長様、お願い致します。

(東京電力・高岡支社長) 皆さん、こんにちは。東京電力立川支社の高岡でございます。今日は2つの観点からこの場に出席させて頂いております。東京電力では、多摩地区420万のお客様を3つの地域に分けて受け持っております。私は立川地区受け持っておりますが、国立から始まりまして、多摩川をどんどん溯って、青梅、奥多摩、丹波山、小菅、多摩川の上流区域を受け持っております。まず、大切なお客様が愛する多摩川を、今後どのようにしていくのか、この地域にどのような貢献ができるのか、改めてこの場で考えていきたいと思っております。次に2点目は、奥多摩町はご存じのことと思っておりますが、私どもは、大切な水を頂きまして、氷川発電所という水力発電所を営業しております。多摩川の水を直接、私どもの事業に使わせて頂いていることもあり、今後、多摩川をどのようにしていくのか、2つの立場から考えていこうと考えております。

この「美しい多摩川フォーラム」の目的の一つに、環境保全というのがもちろんあります。私どもも、東京電力の全社を挙げて、「尾瀬」という湿原について、「ラムサール条約湿地」として登録させて頂きました。これは何十年にも亘って活動してきたものです。また、各地元単位で色々な活動にもご協力させて頂いております。例えば、小菅村さんとの「多摩川源流再生プロジェクト」もございますし、「多摩川の桜100選」も協力させて頂いております。そうした中で、今回のフォーラムが計画している事業が、今後、どのように大きく発展していくのかを楽しみに、参加させて頂きたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

(事務局・宮坂) 有り難うございました。続きまして、多摩川の中流域にある日野市から、小笠課長様にお願い致します。

(日野市・小笠課長) 日野市の緑と清流課長の小笠と申します。日野市は日野市の北部から東部にかけて多摩川に接し、日野市の中央部を多摩川の最大支流であります浅川が流れております。こうした大きな河川に恵まれた環境から、たくさんの用水を導き、田畑を潤し、東京の穀倉地帯と言われていた時期もございます。そうしたことから、日野市では水環境の保全と整備を進めてきたところがございますが、多摩川は全国最大規模の流域人口を抱えながら、この上・中・下流域のそれぞれの場で、活発な利用がなされてきたと思います。河川環境面でも、多くの環境団体とともに、様々な議論をしながら、良い川づくりがなされてきたと思っております。多摩川の持つ自然環境は、四季を通じて彩りを感じ、潤いのある憩いの場として、自然環境と人間活動とがうまく共生されてきた場所とも言えます。

日野市では、先ほども申し上げましたように、多摩川からたくさんの用水を導き、田畑を潤し、昔から「漁」、「渡し」といった様々な恩恵を受けてきました。昨年、日野市では、「清流保全条例」を制定し、河川だけでなく、用水、湧水、地下水の水環境の回復と保全について、しっかりとした姿勢を表明しました。こうした水環境に取り組む姿勢としては、一自治体としてではなく、流域として取り組むことが大切であると思えます。「美しい多摩川フォーラム」の設立により、フォーラムがこうした取組みにも、是非発展させて頂きたいと思えます。よろしくお願い致します。

(事務局・宮坂) 有り難うございました。続きまして、民間の活動団体として全国林業研究グループ連絡協議会の福田副会長様、お願い致します。

(全国林業研究グループ連絡協議会・福田副会長) 福田でございます。私は只今ご紹介頂いた団体とは別に、東京都の女性林研にも所属しております。東京都の活動もしております。設立されて10年になりますが、キャッチフレーズは、「見直そう森の恵み」です。日常の活動としては、自然の中で環境を守ることと同時に、命の大切さを保育園の子供たちへの自然教育として行い、また、川下の人たちにその大切さを体験を通じて考えてもらってきました。そうした折りに、このフォーラムの話があり、嬉しく思いましたし、お手伝いをさせて頂き、この活動がもっと広められればいいなと思いました。

私の家は、山を育てる林業の仕事の関係で、昔から地元で100年も200年もこの仕事をずっとやってきました。「美しい多摩川フォーラム」が100年の計と聞きまして、本当に100年も200年もやっていけるのであれば、大変嬉しいことであり、是非協力していきたいと思っております。今後、当フォーラムが発展するようにお祈り致し

ます。どうぞよろしくお願ひ致します。

(事務局・宮坂) 有り難うございました。続きまして、御岳地域で観光まちづくりに頑張っておられます、勝仙閣の藤崎社長様にお願ひ致します。

(勝仙閣・藤崎社長) 只今ご紹介頂きましたように、私は、多摩川で最も美しい名所の一つで、日本の名水100選にも選定されております御岳溪谷で、小さな旅館を営んでおります。このたびは、観光の現場で働いている者の意見も吸い上げて頂けるのではないかと思ひ、この「美しい多摩川フォーラム」に参加させて頂きました。御岳溪谷は、吉川英治や川合玉堂緑の地ということで、昔から観光地として有名なところです。最近では時代の変化、観光自体の変化で観光客は減少しています。このため、昨年、東京都のご支援、ご指導のもと、「青梅、奥多摩観光まちづくり推進協議会」という団体が発足し、私が会長を務めさせて頂いております。参加団体は、東京都は言うに及ばず、青梅市、奥多摩町、西多摩建設事務所や東京都森林組合、商工会議所、各地域の観光協会など、関係する全ての団体の皆さんにご協力を頂いております。また、「青梅の優れた文化をもう一度確認しよう。再発見しよう。今までなかったもので今の人たちに合った文化・芸術をもう一度作り直そう。」ということで、まちづくりや道づくりに、今も一生懸命携わっているところです。

今回のフォーラムでは、長期の視点で考えているため、どうかと思つたこともございましたが、個々の問題点を突き合わせてみると、非常に多くの共通点があります。基本的にはビジョンは同じと考えておりますので、お互いに情報を交換し、協働していくことで相乗効果が得られると思ひますし、一日も早くこの事業を達成しなければならぬと思つています。どうぞ今後ともよろしくお願ひ致します。

(事務局・宮坂) 有り難うございました。続きまして、声楽家で東京純心女子大学の保多教授にお願ひ致します。

(東京純心女子大学・保多教授) 保多でございます。多摩川の見えるところに住まいがあり、毎日、多摩川を眺めて暮らしております。東京純心女子大学はキャンパスの裏山が滝山城址に繋がっておりまして、そこから眺める多摩川は大変趣きのある景色で、多摩川を非常に身近に感じております。

専門は音楽でございます。音楽はしばしば流れに喩えられまして、その流れとは、「川の流れ」のことです。雪解け水が小川になり、溪谷を下り、人々の暮らしに深く関わり、いずれは大河、そして海に注いでいくというドラマ性ゆえに、芸術のあらゆる分野で川のイメージは題材にされ、讃美されてきたと思ひます。私の専門分野で、「美しい多摩川フォーラム」に対して、どのようにお手伝い出来るか分かりませんが、「美しい」という言葉が本当に力強い、よい意味になりますように、多摩川をシンボルにしたこと

を、次世代が誇りに思えるように願いながら、何か音楽的なことでお手伝いできれば幸いと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

(事務局・宮坂) 有り難うございました。続きまして、民間で水質の調査・研究をしています北斗理研株式会社の山崎社長様にお願い致します。

(北斗理研・山崎社長) 北斗理研の山崎です。これまでお話されました方々に比べ、現場の生々しい話になるのですが、小菅村、丹波山村から羽村の取水堰まで東京都水道局殿では水質調査を行っており、実際に私どもの水質調査機器が多数取り付けられています。全国のダムや河川にも水質計を設置して参りましたが、こうした機器の保守・点検に行くたびに、全国の川が汚れてきており、非常に残念に思っております。こうした中、東京都水道局殿が、平成4年から、小河内貯水池の放流に当たっては、4月から11月までの間、貯水池表面の温かい水を放流したことにより、夏場の多摩川上流の水温が10度程度上昇し、20度前後と温かくなり、川に苔が生え、鮎が育ち、夏の水遊びも楽しめるようになりました。平成4年までは、多摩川第一発電所から放流される水は6～8度位の冷たい水でした。あれから15年経ちましたが、多摩川の水は綺麗になり、川にも「よし」が茂るようになりました。

私たちは、こうした水質調査を全国で展開しておりますが、当フォーラムのために、何か水質情報を提供出来ればと考えております。全国では川が汚れています。自然現象による汚水はすぐに綺麗になりますが、人間の出す汚水はいつまでも綺麗になりません。最近、小河内貯水池が、非常に心配な湖になってきております。このフォーラムの皆さんと共に、昔の小河内の水に返すことが出来るのであれば、喜んでお手伝いをさせて頂きたいと思っております。企業として全国の水質情報を提供出来ればと思ひ、このフォーラムに参加させて頂きましたので、どうぞよろしくお願い致します。

(事務局・宮坂) 有り難うございました。最後になってしまいましたが、民間の活動団体である狛江水辺の楽校の竹本副代表様にお願い致します。水辺の楽校では、全国をリードされている方です。

(狛江水辺の楽校・竹本副代表) 狛江水辺の楽校の竹本でございます。現場のボランティアから一言ご挨拶させて頂きます。これまで多摩川は大人向けの開発をしておりまして、グラウンドやゴルフ場を造ったり、工事が進んだかと思ひます。多摩川は大都市河川の中では非常に自然が多く、私たちは、出来れば子供たちの教育河川として自然を守り、保全し、利用していこうということで、12年前から多摩川の清掃活動を始め、さらに、多摩川流域に15カ所の水辺の楽校が出来ました。子供たちが多摩川に入って泳いだり、魚を捕ったりして実体験をさせてあげられる場が多摩川で、そのサポートをするのが水辺の

楽校です。昨年、狛江市では3,500名の子供たちを実際の川に連れて行き、ライフ・ジャケットを着用して一緒に泳いだりしました。そのような体験を通じて、子供たちが遊んだ分だけ、多摩川が子供たちのふるさとの川になるんじゃないかと思います。今年、河川法が改正されて丁度10年目で、治水利水一辺倒の河川法から、環境を重視し、住民と対話をしようという河川法に改正されて10年目なんですね。丁度良い時に、このフォーラムが立ち上がったんじゃないかなと思います。私はいつも川に行く態勢ですので、場違いの格好だったかも知れませんが、どうぞよろしくお願い致します。

(事務局・宮坂) どうも有り難うございました。さて、本日は、役員、顧問の皆様から、貴重なご意見や地域づくりに向けたメッセージを賜りまして、誠に有り難うございました。本日頂いた数々のメッセージは、今後の当フォーラムの在り方に向け、貴重なメッセージになりますので、当フォーラムの会員一同、身を引き締めて、今後のフォーラム活動の羅針盤として生かして行きたいと思っております。本日は、本当に有り難うございました。

7. 閉 会

(司会・渡辺) 時間が経つのは早いもので、設立総会のお開きの時間が迫っております。本日は、フォーラムの関係者だけでなく、一般の皆様も多数ご来場を賜り、本当に有り難うございました。このあと、臨時運営委員会を1階の別室にて開催致しますので、当フォーラムの運営委員、監事、顧問の皆様、よろしくお願い致します。それでは、「美しい多摩川フォーラムの設立総会」、この辺でお開きとさせていただきます。皆様、本日は本当に有り難うございました。

以 上